

感染症予防衛生研修会報告

編集委員会

令和4年6月17日、自動車会館 大会議室において「感染症予防衛生隊研修会」を開催した。新型コロナウイルスの影響が残るなか、昨年につき会場とオンラインのハイブリッドの開催となり、感染症予防衛生隊86名、正副会長、協会理事、技術委員および感染症委員が参加された。



入口で検温



感染症委員による受付



鵬凶商事(株)でオンライン設営、会場とのハイブリッドで開催された



会場風景

カリキュラム

時 間	演 題		講 師 (敬称略)
13:30 ~ 13:40	10分	挨拶、趣旨説明	東京都ペストコントロール協会 会長 清水 一郎
13:40 ~ 13:50	10分	協会の感染症並びに新型コロナウイルス消毒業務への取り組み	東京都ペストコントロール協会 副会長 元木 貢
13:50 ~ 14:50	60分	消毒業務に必要な感染症基礎知識	東京都ペストコントロール協会 感染症委員 佐々木 健
14:50 ~ 15:00	10分	休憩	
15:00 ~ 16:00	60分	感染症対策の心構え	国立感染症研究所名誉所員 杉山 和良
16:00 ~ 16:10	10分	休憩	
16:10 ~ 16:40	30分	総合討論	座長 谷川技術委員長



清水会長挨拶

協会の感染症並びに新型コロナウイルス消毒業務への取り組み(元木副会長)

伝染病予防法の廃止にともない東京都防疫所が廃止となった。協会では感染症予防衛生隊を組織し、行政に協力することとした。規則・細則を制定し、人的要件・物的要件、講習会受講義務、感染症対応マニュアル、実施計画を作成し、これまでにさまざまな感染症案件に出動してきた。

感染症予防衛生隊研修会報告

新型コロナウイルスでは、搬送救急車消毒で2021年8月からは17時～翌9時まで2班以上が待機、24時間出勤にあたった。2022年4月まで延べ4,000台、11,000人あまりが出動した。消毒作業に伴う陽性者はおらず、安全が確保された。今後、熱中症対策、日常の健康管理、平常時においても24時間待機の契約が必要、さらなるラインワークスなどのデジタルの活用などが課題である。



消毒業務に必要な感染症基礎知識(佐々木感染症委員)

近年の感染症対策業務には新型コロナウイルス感染者発生時の消毒業務、デング熱発生時の蚊防除、サーベイランス(感染症発生動向調査)、水害発生時の消毒業務、その他感染症対策業務、ノロウイルス・赤痢等の発生時の消毒、病院等の定期消毒業務などがある。感染症を防ぐ目的には、①感染症を媒介するネズミ、ゴキブリ、カ等の衛生害虫を防除、②汚染された環境を消毒する、が必要である。新型コロナウイルス対応消毒手法、水害発生後の消毒事例、デング熱感染蚊の防除について基礎知識を習得するとともに、迅速な出動態勢、訓練が重要である。



感染症対策の心構え(杉山先生)

内容

1. 病原体・感染・感染症法
2. バイオセーフティの考え方
3. 個人用防護具(PPE)
4. 消毒・滅菌法
5. バイオリスクマネジメント

適切なバイオリスクマネジメントの実施には、教育訓練、マニュアル整備と適宜の改定・周知、記録の作成と保管、PDCAサイクルによるバイオリスクマネジメントの持続的改善



が欠かせない。バイオリスクマネジメントで重要なことは、良く機能する安全管理体制のもと、日常の安全管理を確実に行う(実験室、検査室、作業現場)ことである。そのためには、作業者の知識と技術レベルの向上と維持が必要、それでも事故は起こりうるが低減化はできる！



谷川技術委員長の座長により質疑応答がなされ、会場から関係学会と感染症予防衛生隊との連携について、オゾン発生器による殺菌は新型コロナウイルスに有効か、1類感染症に対応するには新型コロナで使用しているPPEで大丈夫か、など活発な質問が出された。

閉会にあたって渡邊感染症委員長よりコロナ消毒への協力に感謝の意が述べられた。

